

平成30年第5回（11月）瀬戸内市議会定例会

教育委員会行政報告

市長の行政報告に引き続き、教育委員会から行政報告をいたします。

○ 山鳥毛里帰りプロジェクトについて

市長からの行政報告でもご案内のとおり、11月1日、備前刀の最高峰で国宝の「山鳥毛」が生まれ故郷である「備前長船」の地に里帰りするための「山鳥毛里帰りプロジェクト」クラウドファンディングを開始しました。

このプロジェクトについて市民の皆さまと備前刀や国宝「山鳥毛」について理解を深めると共に、日本刀文化を活かした瀬戸内市のまちづくりについて考えるため、去る11月17日に「山鳥毛里帰りプロジェクト」シンポジウムを開催しました。静岡大学名誉教授の^{おわだてつお}小和田哲男先生に「刀剣と戦国武将～国宝『山鳥毛』がたどった道～」と題して基調講演をしていただいた後、「山鳥毛」にゆかりのある方や刀剣愛好家の女性などをパネリストに迎え、「国宝『山鳥毛』と備前刀の未来」と題したパネルディスカッションを行いました。その中では、国宝「山鳥毛」の伝統工芸品としての価値や歴史的意義、瀬戸内市がこれを保有し、活用していくことの意義について意見交換があり、参加した多くの皆さまに聞いていただきました。

また、「山鳥毛里帰りサポーター」と題し、このプロジェクトを応援してくださる方を、市内外を含めまして広く募集を行っています。このサ

ポーターの皆さまには、このプロジェクトのPRやクラウドファンディングなどについて、知り合いや興味のある方への案内などの支援についてご協力をいただいています。

○ おかやま教育週間について

岡山県では、学校、家庭、地域社会が一体となって「地域の子どもは地域で育てる」という機運を盛り上げるため、毎年11月1日から7日までを「おかやま教育週間」としています。

本市では、各学校園の実情に合わせて、10月1日から11月30日までの期間に、教育週間の活動として授業だけでなく、地域や保護者とのふれあい活動など、工夫を凝らした学校開放を行っています。学校開放は、各学校園の発表の場や地域の方々とのふれあいの場ともなっていることから、学校、家庭、地域社会が一体となって子どもたちを育てていける大切な機会と捉えています。

また、学校開放は、保護者や地域の方に子どもたちの活動や授業を自由に見ていただいたり、地区の文化祭や講演会などの行事に参加いただいたりすることで、取組や子どもたちの活動を保護者や地域へ発信する場としても継続していきたいと考えています。

○ 平成30年度瀬戸内市青少年健全育成推進大会について

次代を担う子どもたちが、高い志と意欲を持つ自立した人間として成長するため、家庭・地域・学校等全ての大人が積極的に行動する気運を高めることを目的として、11月24日に中央公民館において瀬戸内市青少年健全育成推進大会を開催しました。

第1部では、応募総数1,160点から選ばれた「明るい家庭づくり」作文の市優秀賞受賞者の表彰及び作品発表を行いました。日常生活の中で家族や家庭を振り返り、感じたことや考えたことなどを作文にしたもので、受賞作品は、どれも素晴らしい内容でした。

第2部では、教育アドバイザーの^{しもじとしお}下地敏雄さんをお迎えし、「夢と人 ～親としての、子どもとの接し方～」と題し講演していただきました。講師からは、叶えるべき夢が実現できる人間に育てるためにどんな子育てをしたらよいのかを熱心にお話しいただき、子育て世代を中心とする参加者にとって大変有意義な内容でした。

○図書館について

10月1日から、岡山連携中枢都市圏図書館相互利用に瀬戸内市も参加しました。これは、岡山市を中心とした6市4町の住民が、それぞれの図書館を相互に利用できるものです。また、現在この相互利用の各図書館で借りた本は、借りた図書館にしか返却できませんが、平成31年1月8日から、相互利用参加図書館のどの図書館でも、貸出と返却が可能となり、利便性が一層向上することとなります。今後も、瀬戸内市はもとより、連携自治体の利用者にも喜んでいただける図書館サービスに努めていきたいと考えています。

○瀬戸内市文化祭・備前長船菊花展の開催について

生涯学習の中心的施設でもある公民館において、10月・11月に瀬戸内市文化祭が開催されました。会場は中央・牛窓・長船町公民館の3会場で、公民館で生涯学習活動・文化芸術活動を行っている個人・グループの方々による学習や文化活動の成果の展示や発表が行われました。

特に邑久会場の中央公民館では、文化祭オープニングの演劇・音楽鑑賞として、ボランティア劇団の花みずきによる演劇「水戸黄門瀬戸内まんじゅう編」や、美しいハーモニーで心を魅了するフルートオーケストラセレーナによる演奏から始まったことで華々しい文化祭のスタートで開催することができました。

また、県下最大規模を誇る菊花展として第32回備前長船菊花展を10月14日から11月15日まで開催しました。展示会場には、市内外の菊づくり講座受講者や愛好家の皆さま92人による158点、1,040鉢余りの瀬戸内市の市花である菊が見事に咲き誇りました。11月6日から夜間のライトアップを行い、夜の幻想美もご覧いただきました。

○ 備前長船刀剣博物館について

博物館では11月30日から来年の2月11日まで、テーマ展として「甦あかぼねとうった赤羽刀と長船分会展」を開催予定にしています。

第二次世界大戦後、GHQの命令で関東周辺の日本刀が赤羽あかぼねに集められました。この時、有識者の交渉努力によって返還され、その後、全国の博物館等に分けて移管されました。今回の展示は、博物館に所蔵する107口のうち約40口を、苦難の時代を乗り越えた赤羽刀あかぼねとうとして展示を行います。

また、同時開催としまして、11月30日から12月12日までは、日本美術刀剣保存協会岡山県支部に所属する備前長船分会の所蔵する刀を展示します。

○ 瀬戸内市立美術館について

10月26日から12月9日まで「まど・みちおのうちゅう」を開催しています。「ぞうさん」「やぎさん ゆうびん」「ふしぎな ポケット」など、だれもが口ずさんだことのあるこれらの童謡を生み出したのが詩人まど・みちおです。この展覧会では、まど・みちおの詩人としての足跡をたどるとともに、50代はじめに集中的に描いた絵画作品を通して、その独特の宇宙観を紹介します。12月15日から1月10日まで、企画展「日中平和友好条約締結40周年記念 第2回 海がつなぐ記憶 景德鎮^{けいとくちん}巨匠・佐竹徳展」を開催します。これは日中平和友好条約締結40周年を記念して、かつて牛窓は中国への船が出るなど大陸との交流が盛んに行われていたことにちなみ、1000年以上の歴史をもつ景德鎮^{けいとくちん}陶磁器の高い技術と洗練された美的感覚を受け継いだ現代中国の焼物界を代表する3人の作家作品を展示します。本展では、景德鎮^{けいとくちん}の焼物に当館所蔵の佐竹徳の絵画作品をあわせて展示し、海がつないだ縁についてご紹介します。

また、瀬戸内市協働提案事業として市内の小学生や高校生の来館時やワークショップで、美術に親しむ体験を通じた対話型美術鑑賞プログラムを行うことにより、瀬戸内市の文化色豊かなまちづくりを目指しています。

以上をもって、教育委員会の行政報告とさせていただきます。

平成30年11月27日

瀬戸内市教育委員会

教育長 東南 信行